

App Bridge Monitor
Agent 監視サービス
Windows Agent インストールガイド

Ver. 1.19.0

目次

1. 本書の役割.....	1
2. 監視対象ノードの登録.....	2
3. Agent のインストール	5
3.1 Agent の前提条件、対象 OS.....	5
3.2 監視対象サーバへのログイン.....	5
3.3 セットアップファイルのダウンロードと解凍.....	5
3.4 インストール.....	6
3.5 Smart Controller での設定	9
3.6 動作確認.....	11
3.6.1 サービスの起動確認.....	11
3.6.2 監視状態の確認.....	12
4. Agent のアンインストール.....	14
5. Windows Agent のアップグレード.....	15
6. ノードの再設定	15
7. Windows Agent のサービス制御	16
7.1 Windows サービス構成	16
7.2 Service Control によるサービス制御	16
8. プロキシの設定	17
9. 監視項目、監視条件の変更	18

1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor Windows Agent のインストール方法について説明するものです。

Azure Cloud Services をご利用の際は、「App Bridge Monitor Agent 監視サービス Windows Agent インストールガイド Azure Cloud Services 編」を参照下さい。

2. 監視対象ノードの登録

App Bridge Monitor と App Bridge Kicker は同じノード情報を共有します。このため既に App Bridge Kicker のノードとして登録されているサーバに App Bridge Monitor Agent をインストールする場合、本章の操作は不要です。

Windows Agent による Agent 監視サービスを実施するためには、監視対象サーバをノードとして登録します。本操作はユーザロール EnterpriseAdmin/NodeAdmin で実施できます。

新しいノードを登録するには、App Bridge サイトにログインいただき、＜メインメニュー/ノード管理/ノード一覧＞の[ノード登録]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧

ノードCD(前方一致) ☐ 解約済を表示

ノードCD	ノード名	種類	スケーリング制御
WS1	Windowsサーバ1号機	Windows(Amazon EC2)	☐

登録するノードの情報を入力します。入力が完了したら、[確認]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > ノード登録

確認

キャンセル

ノード基本情報

ノードCD	
ノード名	
種類	--- ▾
スケーリング制御	☐

ノード基本情報は、利用者サーバの基本情報を登録するものです

- 本情報の登録により、App Bridge Monitor Agent、App Bridge Kicker Agentが利用可能となります
- App Bridge Monitor Agentをインストールしない限り、本情報を登録しても、Agent監視の課金は発生しません
- App Bridge Kicker Agentをインストールしない限り、本情報を登録しても、オナノード課金は発生しません

ノード契約情報

統計保有日数(日)	--- ▾
応答監視エンドポイント上限数(件)	選択しない ▾
API監視	☐ 有効

ノード契約情報は、App Bridge Monitorの利用者サーバ監視設定であり、課金に影響するものです

- 統計保有日数は、Agent監視、応答監視の統計情報保存する日数であり、各監視の単価に影響します
- 応答監視は、申請ベースの課金であり、エンドポイント上限数を登録した時点から課金が発生します
- API監視は、申請ベースの課金であり、API監視を有効とした時点から課金が発生します

項目名称	設定内容	備考
ノード CD	監視対象ノードを一意に識別するためのノード CD を入力します。以降の処理には、このノード CD が必要です	(※1)
ノード名	任意のノード名を入力します	
種類	ノードの種類をプルダウンメニューから選択します	(※2)
スケーリング制御	AWS Auto Scaling など、サーバインスタンスを動的に増減させる場合チェックします	(※3)
統計保有日数 (日)	統計情報を保存する日数を選択します	
応答監視エンドポイント 上限数 (件)	応答監視 (Ping 監視、HTTP 監視、TCP ポート監視) のエンドポイント数を選択します。エンドポイント数は、監視したい Ping FQDN、HTTP URL、HTTPS URL、TCP FQDN とポート番号の合計です	(※4) (※6)
API 監視	API を利用したインスタンスのステータス監視を実施する場合、チェックします	(※5) (※6)

※1：先頭英字で半角英字、数字、アンダースコア、ハイフンで構成された 32 文字で指定します

※2：次ページ「種類の一覧」を参照下さい

※3：スケーリング制御の解説は「App Bridge Monitor ファーストステップガイド」を参照下さい

※4：「App Bridge Monitor 応答監視サービスガイド」を参照下さい

※5：「App Bridge Monitor API 監視サービスガイド」を参照下さい

※6：本画面で設定した時点から課金が発生します

種類の一覧は以下のとおりです。グレーアウトしている種類は本マニュアルの対象外です。

#	種類	内容	スケーリング制御
1	Windows (On-Premises)	Windows サーバ	選択可
2	Windows (Microsoft Azure Cloud Services)	Azure Cloud Services で稼働する Windows サーバ	必須
3	Windows (Microsoft Azure Virtual Machines)	Azure Virtual Machines で稼働する Windows サーバ	選択可
4	Windows (Amazon EC2)	Amazon Web Services で稼働する Windows サーバ	選択可
5	Linux (On-Premises)	Linux サーバ	選択可
6	Linux (Microsoft Azure Virtual Machines)	Azure Virtual Machines で稼働する Linux サーバ	選択可
7	Linux (Amazon EC2)	Amazon Web Services で稼働する Linux サーバ	選択可
8	Databases Host	Microsoft Azure、または Amazon RDS の SQL Server サービス	選択不可
9	Network Device	ネットワーク機器（ルータ、ファイアウォールなど）	選択不可

表示されたノード登録確認画面で入力した内容を確認し、「内容を確認しました」のチェックボックスにチェックを入れて、[決定]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > ノード登録確認

☒ 内容を確認しました

ノードを登録する場合、「内容を確認しました」にチェックを付けて決定ボタンを押してください。

決定 戻る

ノードCD	WS2
ノード名	Windowsサーバ2号機
種類	Windows(On-Premises)
スケーリング制御	☐
統計保有日数(日)	40
応答監視エンドポイント上限数(件)	選択しない
API監視	☐ 有効

これでノード登録は完了です。ご登録頂いたメールアドレスに「App Bridge 利用手続き完了通知（ノード登録完了）」が電子メールで送信されます。

3. Agent のインストール

3.1 Agent の前提条件、対象 OS

Windows Agent がサポートする環境、前提条件については、「App Bridge Agent サポートリスト」を参照下さい。

3.2 監視対象サーバへのログイン

監視対象サーバに管理者権限を持つアカウントでログインします。

3.3 セットアップファイルのダウンロードと解凍

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Monitor.html

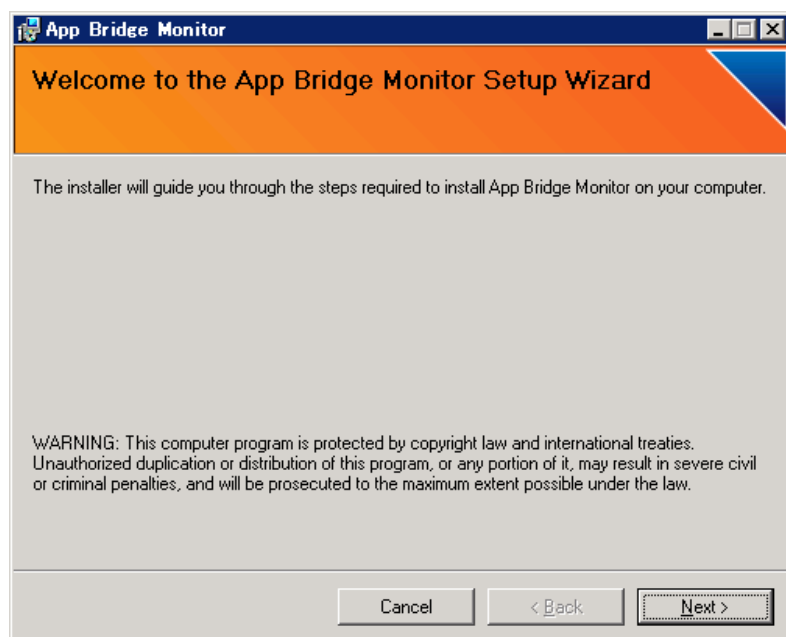
ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupABMAgent_v011900.zip	SetupUCS.msi	

3.4 インストール

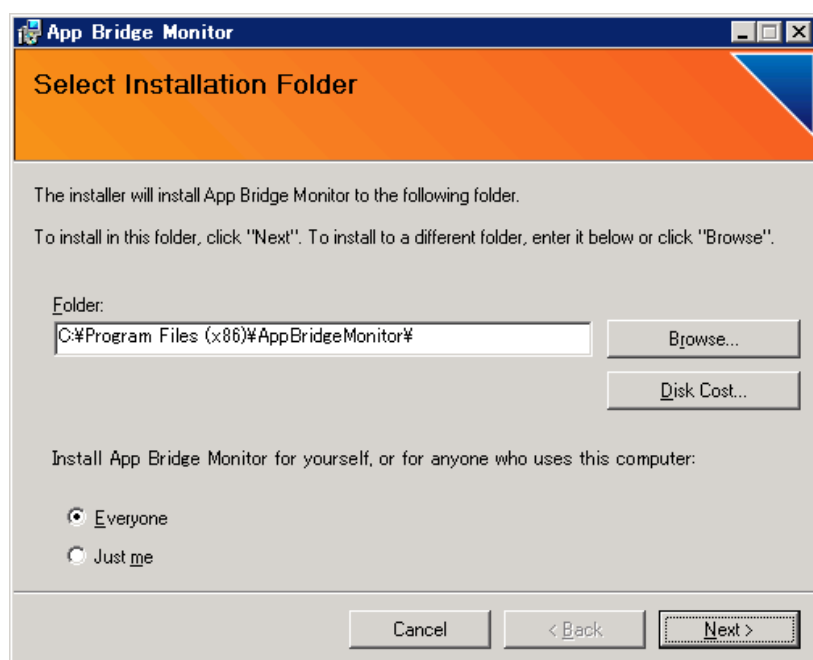
App Bridge Support Tools がインストールされている環境では、App Bridge Monitor Agent をインストールする前に App Bridge Support Tools をアンインストールして下さい。App Bridge Support Tools と App Bridge Monitor Agent は一部のモジュールを共有しており、同時にインストールすることはできません

解凍フォルダの SetupUCS.msi を実行します。

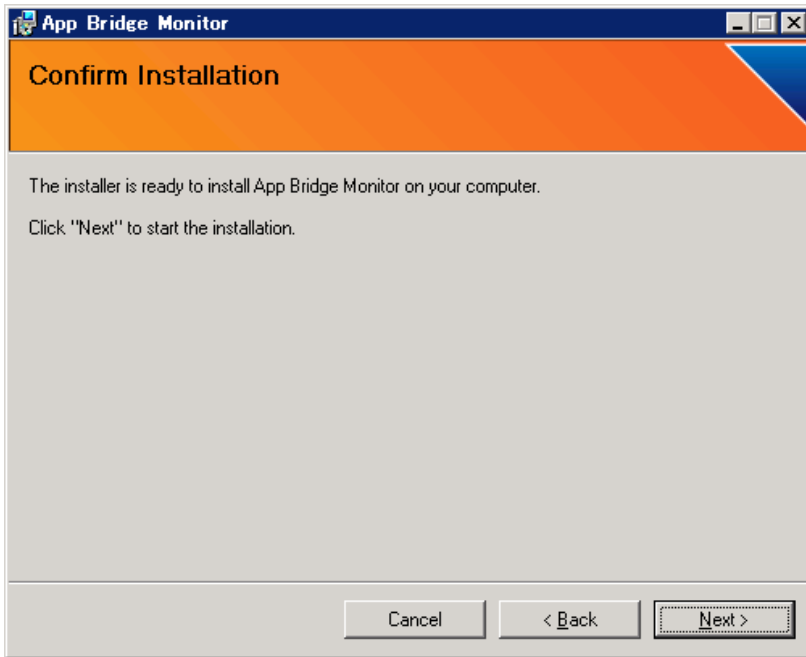
表示される画面に従い、[Next] ボタンをクリックします。



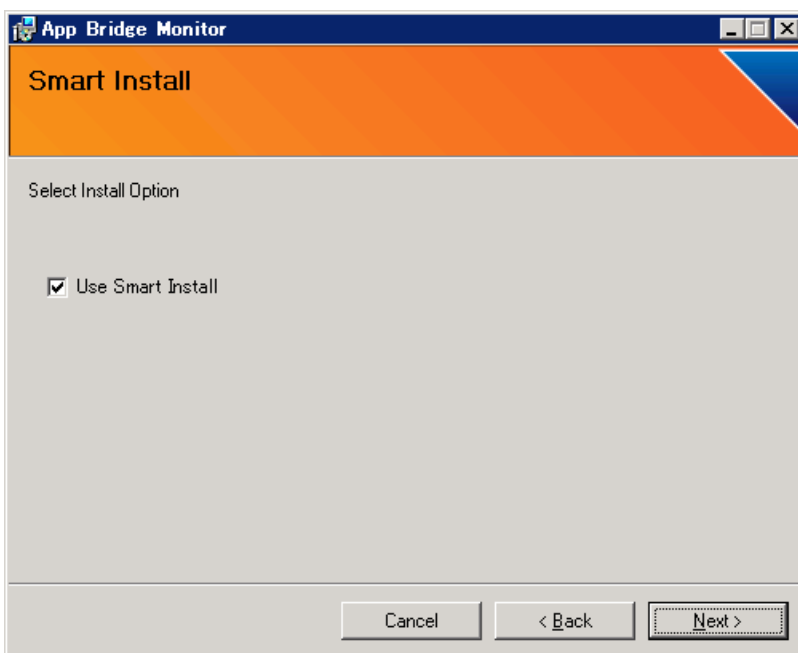
インストールフォルダを選択し、[Next] ボタンをクリックします。



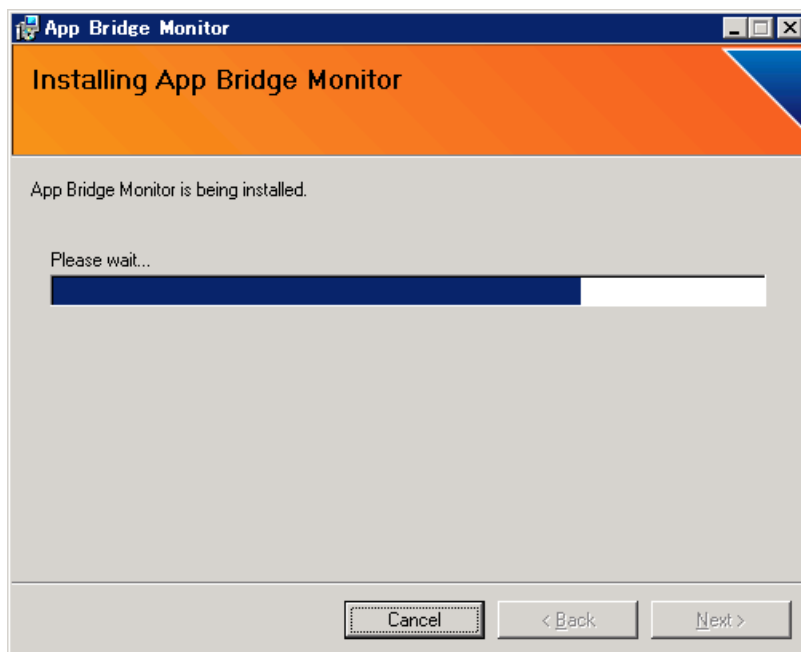
[Next] ボタンをクリックします。



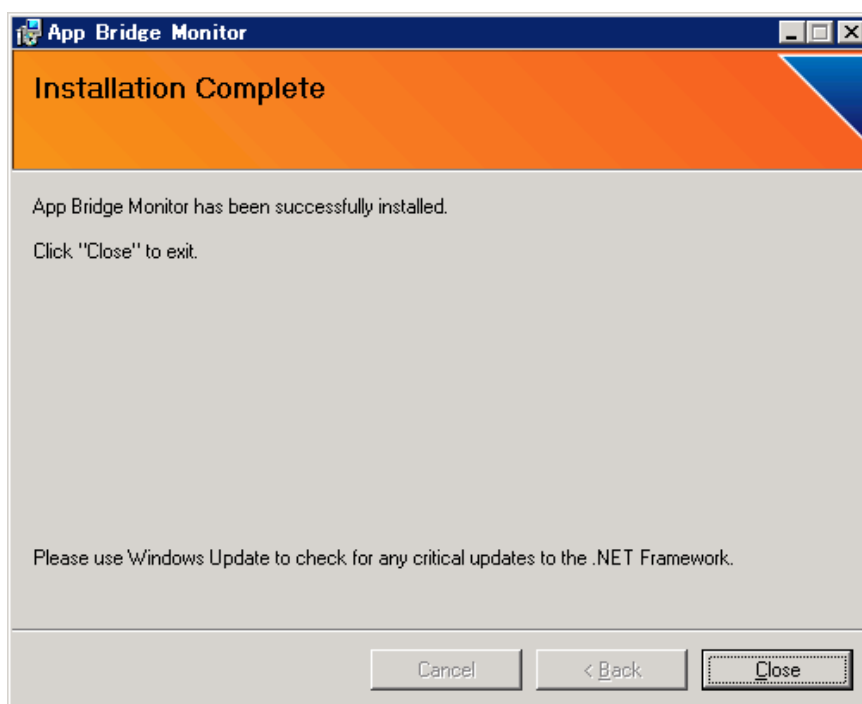
Use Smart Install をチェックし、[Next] ボタンをクリックします。



インストールが実行されます。



インストールが完了しました。[Close]ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。



3.5 Smart Controller での設定

インストールが終了すると Smart Controller が自動的に起動します。 [Smart Install] ボタンをクリックしてください。 App Bridge Kicker をインストールしている環境では、 [Smart Install] ボタンが無効となっています。 この場合、本節の設定は必要ありません。



Smart Download の入力ウィンドウが起動します。

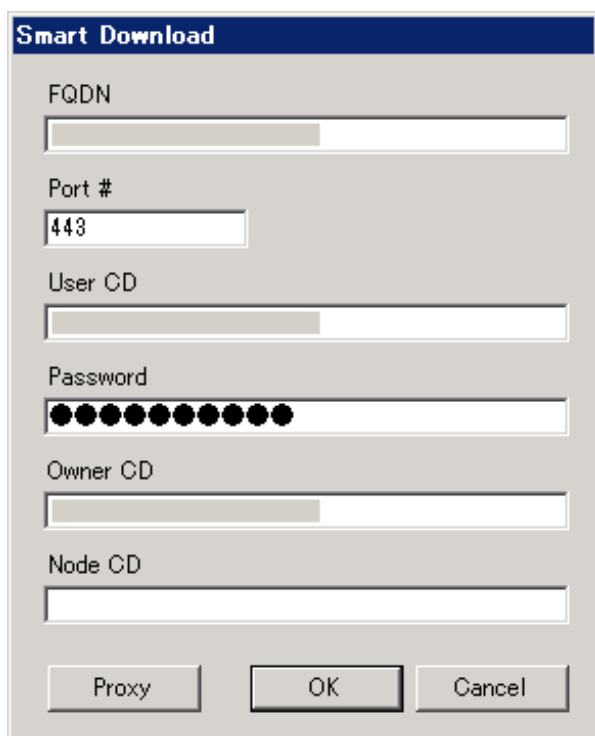
A screenshot of the 'Smart Download' input window. It has a title bar with the text 'Smart Download'. The main area contains several input fields: 'FQDN' (empty), 'Port #' (containing '443'), 'User CD' (empty), 'Password' (empty), 'Owner CD' (empty), and 'Node CD' (empty). At the bottom, there are three buttons: 'Proxy', 'OK', and 'Cancel'.

App Bridge センタへの HTTPS 通信をプロキシサーバ経由とする場合、[Proxy] ボタンをクリックし、プロキシ情報を設定して下さい。

プロキシ設定の詳細は、別紙「別紙「App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイド」を参照下さい。

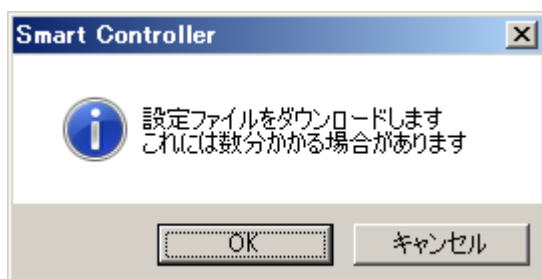
設定項目	設定内容	備考
FQDN	mercury. app-bridge. com	
Port#	443	
User CD	ユーザコード	EnterpriseAdmin、または ServiceAdmin のユーザを指定します
Password	ユーザのパスワード	指定したユーザのパスワードを指定します
Owner CD	対象のオーナーコード	「App Bridge 利用手続き完了通知」に記載されているオーナーコードを指定します
Node CD	対象のノードコード	登録したノードのノードコードを指定します

[OK] ボタンをクリックすると、設定情報を取得し、標準監視項目を設定します。この処理には、数十秒～数分を要します。

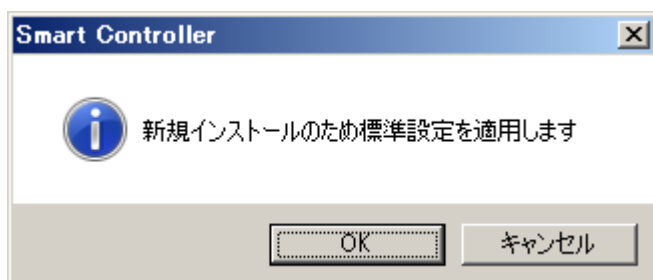


The 'Smart Download' dialog box contains the following fields and buttons:

- FQDN: [Empty text box]
- Port #: [443]
- User CD: [Empty text box]
- Password: [Masked with 12 dots]
- Owner CD: [Empty text box]
- Node CD: [Empty text box]
- Buttons: Proxy, OK, Cancel



設定情報の入手が成功すると、以下の画面が表示されます。 [OK] ボタンをクリックしてください

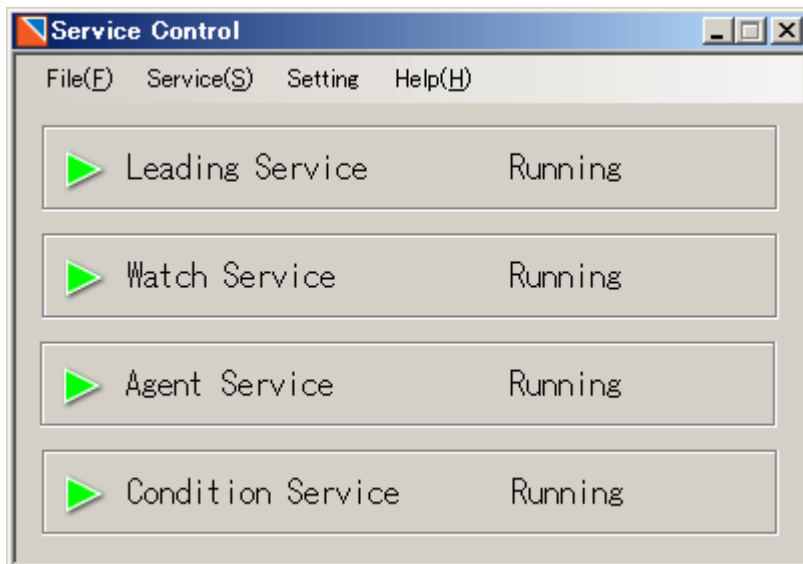


これでインストールは終了です。続いて動作確認を実施します。

3.6 動作確認

3.6.1 サービスの起動確認

スタートメニューから「App Bridge Monitor」－「Service Control」を起動します。Service Controlのメニューから「Service」－「All Service」－「Start」を選択し、サービスを起動して下さい。



サービスが起動すれば、標準的な監視が始まっています。

3.6.2 監視状態の確認

監視対象サーバの状態を確認するには、＜メインメニュー/監視照会/ノード一覧＞のステータスを確認します。対象サーバのステータスが「Unknown」以外であれば、監視されています。サーバ状態の詳細を確認する場合は、ノードCD をクリックします。

Menu > ノード一覧

ステータス すべて ☐ 解約済を表示

ノードCD(前方一致検索) 表示内容を更新

ノードCD	ノード名	種類	スケーリング	ステータス	ハートビート日時
CS1	CloudServices1号	Windows(Microsoft A: 0		Unknown	2017-03-06 16:54:43
LX1	Linuxサーバ1号機	Linux(On-Premises) -		Unknown	2017-03-07 11:15:41
VM1	Azure Virtual Ma	Windows(Microsoft A: -		Unknown	not occurred
WS1	Windowsサーバ1号	Windows(Amazon EC2) -		Good	2017-03-08 15:04:54

監視対象サーバの詳細情報が表示されます。統計情報を確認するには、該当のアイコンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > ノード詳細

ノードCD WS1

種類 Windows(Amazon EC2)

ノード名 Windowsサーバ1号機

ハートビート日時 2017-03-06 14:19:24

OS情報 Windows 7 Professional SP1 (6.1.7601)

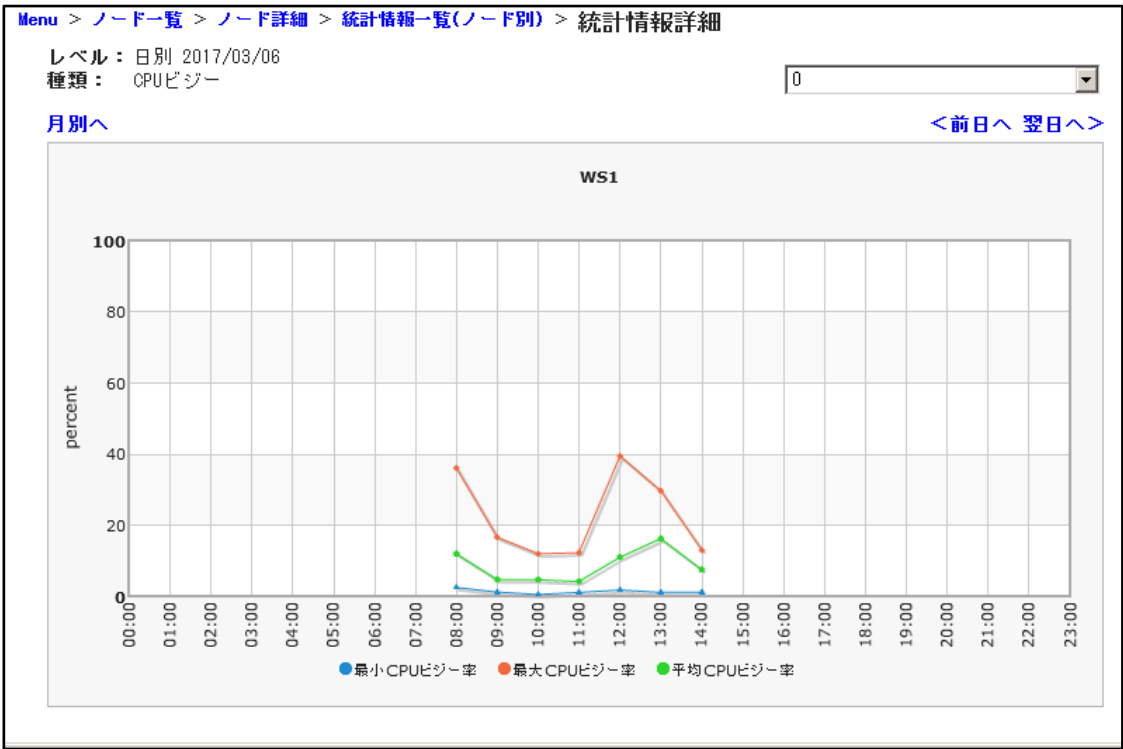
Agentバージョン 1.10.2.0

ステータス一覧

種類 すべて ステータス すべて 表示内容を更新

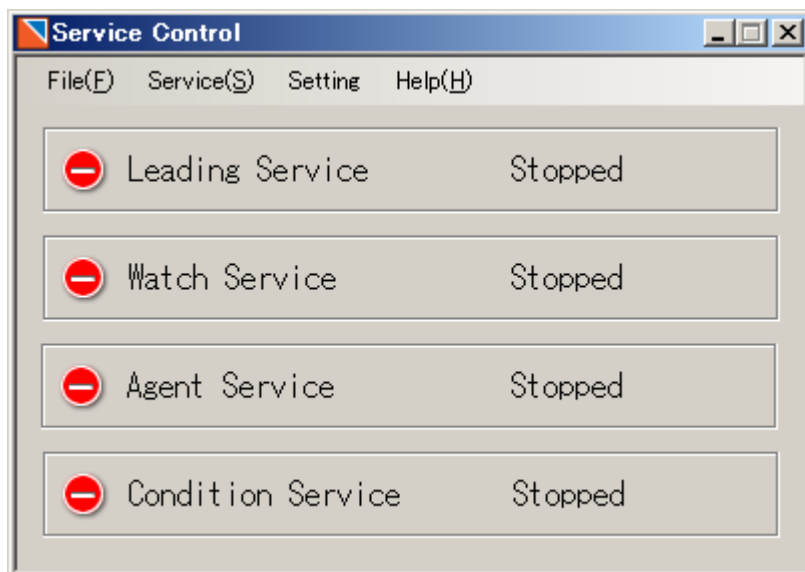
種類	キー	値	ステータス	データ更新日時
CPUビジー	0	ビジー率: 6.969 %	Good	2017-03-06 14:05:22
CPUビジー	1	ビジー率: 0.08280307 %	Good	2017-03-06 14:05:22
CPUビジー	2	ビジー率: 3.834617 %	Good	2017-03-06 14:05:22
CPUビジー	3	ビジー率: 0.03856128 %	Good	2017-03-06 14:05:22
物理メモリ容量		空き容量: 1.17 GB / 2.94 GB	Good	2017-03-06 14:05:22
仮想メモリ容量		空き容量: 3.31 GB / 5.89 GB	Good	2017-03-06 14:05:22
ディスクビジー	0 C: E: F:	ビジー率: 0.8545179 %	Good	2017-03-06 14:15:22

統計情報が表示されます。

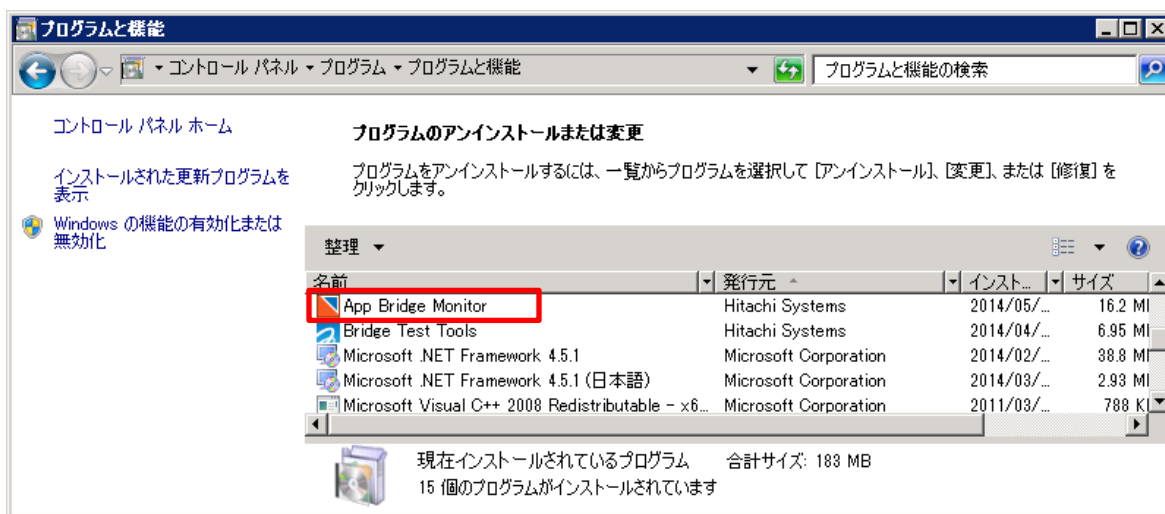


4. Agent のアンインストール

Service Control のメニューから「Service」－「All Service」－「Stop」を実行し、App Bridge Monitor 全サービスを終了させます。サービス終了後、Service Control は閉じてください。



「コントロールパネル」－「プログラムと機能」で「App Bridge Monitor」を選択し、アンインストールを実施します。



5. Windows Agent のアップグレード

Windows Agent をアップグレードする場合、アンインストールを実行したのち、再度新しいバージョンのインストールを実行してください。設定情報は引き継がれます。

ダウングレード（古いバージョンのインストール）は保証していません。

6. ノードの再設定

インストールしている Agent を異なるノードに変更する、またはノードを変更せずにノード設定をリフレッシュ（※1）する場合、「ノードの再設定」を実施します。

「ノードの再設定」を実施するためには、監視対象サーバに管理者権限を持ったアカウントでログインし、スタートメニューから「App Bridge Monitor」－「Smart Install」を起動します。起動した Smart Controller で「Change Config」をクリックし、表示される画面に従って設定します。



なお、異なるノードに変更した場合、及びノードを変更せずにノード設定をリフレッシュ（※1）した場合、いずれの場合も各種監視設定は維持されます。

※1: App Bridge センタからダウンロードした情報を全て削除します。利用者が設定した内容は保持されます

7. Windows Agent のサービス制御

7.1 Windows サービス構成

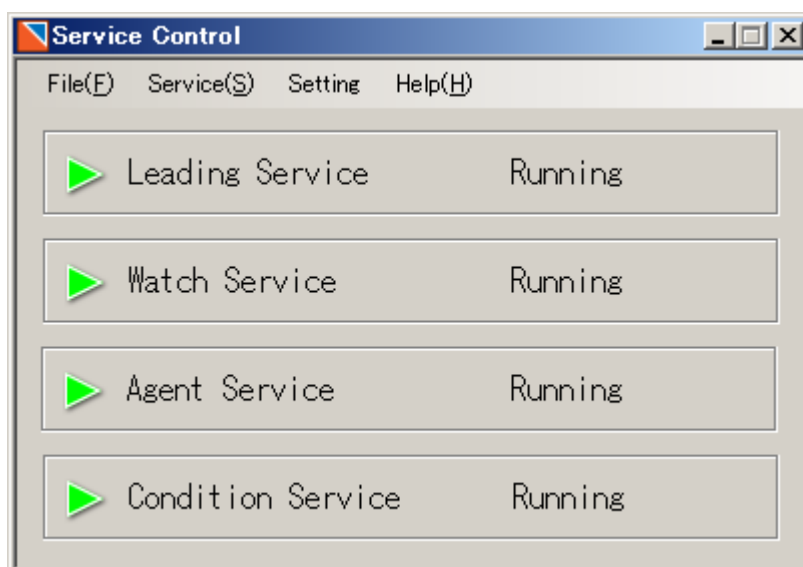
App Bridge Monitor Windows Agent は以下のサービスで構成されています。各サービスには起動、停止順が定められており、Leading サービスが制御しています。サービスを開始、停止する際には、後述の Service Control を使用して下さい。

#	サービス名	サービス概要	スタートアップ
1	UCS Leading Service	従属する Windows サービス (Watch、Agent、Condition) を制御します	自動 (遅延開始)
2	UCS Watch Service	監視データを作成します	手動
3	UCS Agent Service	監視データを App Bridge センタに送信します	手動
4	UCS Condition Service	不要ファイル削除など、管理系処理を実施します	手動

7.2 Service Control によるサービス制御

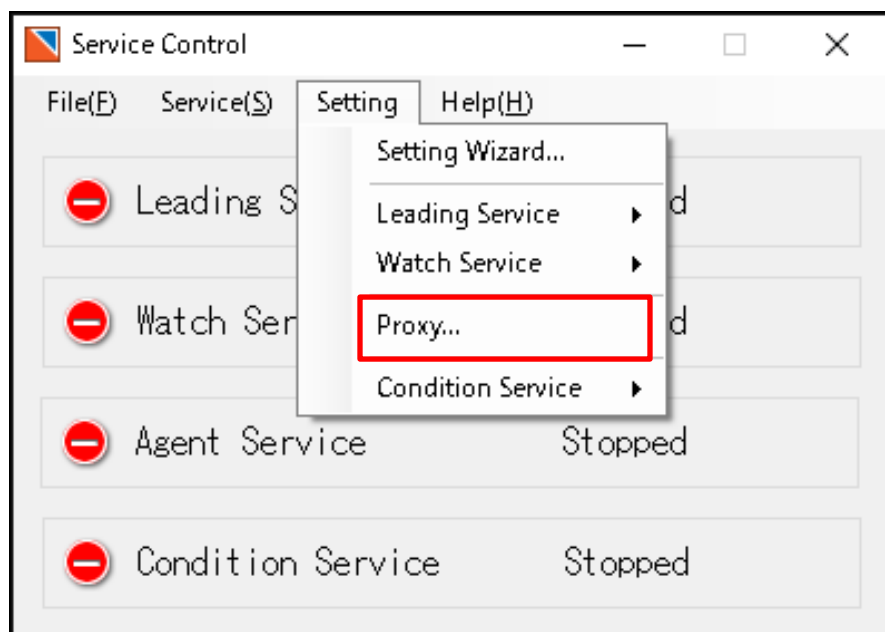
App Bridge Monitor サービスを開始、終了するには、監視対象サーバに管理者権限を持ったアカウントでログインし、スタートメニューから「App Bridge Monitor」－「Service Control」を起動します。

App Bridge Monitor サービスを開始するには、Service Control のメニューから「Service」－「All Service」－「Start」を選択します。サービスを終了するには、Service Control のメニューから「Service」－「All Service」－「Stop」を選択します。



8. プロキシの設定

App Bridge センタに対する HTTPS アクセスにプロキシを使用する場合、スタートメニューから「App Bridge Monitor」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「Setting」－「Proxy...」を選択してプロキシ設定画面を表示します。表示されたプロキシ設定画面にプロキシ情報を入力して下さい。プロキシ設定画面の詳細は、別紙「App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイド」を参照下さい。



9. 監視項目、監視条件の変更

Agent 監視サービスの監視設定は、Agent での対象項目設定と Web サイトでのエラー判定条件に分かれています。主な設定内容は以下のとおりです。

監視項目	Agent 監視対象設定 (※1)	Web サイトエラー判定条件 (※2)	備考
イベントログ監視	監視対象のイベントログを指定します。初期値で、システムとアプリケーションの Error、Critical が対象となります	エラーとする条件（イベントの種類、ソース、メッセージ ID、メッセージ）を指定します	※3 ※4
テキストログ監視	監視対象のテキストログを指定します	エラーとする条件（フォルダパス、ファイル名、ファイルの説明、ログの内容）を指定します	※3 ※4
Windows サービス監視	監視対象のサービスを指定します。App Bridge 関連のサービスは強制的に監視対象となります	—	
プロセス監視	監視対象のプロセスを指定します	プロセス数の下限、上限を指定します	※4
CPU ビジー監視	監視対象 CPU を指定します。初期値で、全ての CPU が対象となります	CPU ビジーの上限、上限超過経過時間を指定します	※4
ディスクビジー監視	監視対象のディスク装置を指定します。初期値で全ての物理ディスクが対象となります	ディスクビジーの上限、上限超過経過時間を指定します	※4
ディスク容量監視	監視対象のドライブを指定します。初期値で全ての固定ディスクドライブが対象となります	空き容量の下限（バイト数、パーセント）を指定します	※4
物理メモリ監視	初期値で監視対象です	空き容量の下限（バイト数、パーセント）、下限超過制限時間を指定します	
仮想メモリ監視	初期値で監視対象です	空き容量の下限（バイト数、パーセント）、下限超過制限時間を指定します	※4
SQL Server 容量監視	監視対象のデータベースを指定します	空き容量の下限（バイト数、パーセント）、下限超過制限時間を指定します	※4
SQL Server 応答監視	監視対象のクエリーを指定します	—	

※1：詳細は、App Bridge Monitor Agent 監視サービス Windows Agent 設定ガイドを参照願います

※2：詳細は、App Bridge Monitor Agent 監視サービス エラー判定条件ガイドを参照願います

※3：Web サイトで設定したエラー条件に該当し、且つ除外エラー条件に該当しないデータのみが監視サイトに送信されます

※4：監視条件には、初期値が設定されています。詳細は、App Bridge Monitor Agent 監視サービス エラー判定条件ガイドを参照願います